

# 和し 鍛え 学ぶ

10月14日（火）の1時間目に後期始業式を行いました。前期末野原賞の表彰のほか、後期生徒会役員・委員長・級長の認証も行いました。3年生はいよいよ受験校決定の時期に入りました。2年生、1年生も、それぞれ立派な最高学年や先輩に成長できるよう、目標をもって後期の学校生活に取り組んでほしいです。気持ちを新たにそれぞれの生徒が努力することを期待します。



## 後期始業式「成長のために必要な節目」～校長の話～



全校のみなさん、おはようございます。気持ちを新たに頑張っていきましょう。先ほど末野原賞の表彰を受けた生徒の皆さん、おめでとうございます。これからも他の生徒の模範となる姿を期待します。あわせて、後期生徒会役員、各委員会の委員長、各学級の級長の認証も行いました。表彰や認証を受けた皆さんのお返事や姿勢は大変立派でした。さすが、リーダーや代表に選ばれる人たちだと感心しました。さらに良い学校、学年、学級になるよう、半年間、皆さんの頑張りを期待します。

そして、生徒代表として後期への意気込みを発表してくれた3年生の加藤君。加藤君は「つらいことから新しい挑戦へ」というテーマで、生徒会議長や合唱コンクール指揮者を務めた経験から学んだこと、また、周りの人たちの温かい支えがあったからこそ、という経験ができたことなどを話してくれました。私は、加藤君の話から、加藤君は「思いがあったから行動できた」と感じました。そして「行動したからこそ得られたものがあった」と感じました。思いがなかったら行動できなかつたし、行動しなかつたら、今、加藤君の胸の中にあるものは、決して得られなかつたのだと思います。大変立派でした。



さて、今日は今年度の折り返しである後期始業式です。前期の半年間で特に私の印象に残っているのは、41回生と行った修学旅行と合唱コンクールです。

修学旅行は雨模様でした。それでも、41回生のみんなは悪天候をものとせず、笑顔で修学旅行を楽しみました。その姿を見て本当に嬉しかったです。人は楽しい時より苦しい時にその人の本当の姿が表

に出ます。文句を言ったり、愚痴を言ったりするのではなく「頑張ろうよ」「楽しもうよ」という空気を出せる人は素敵です。これから半年間も、そんな気持ちで、みんなで過ごしていけたら、半年後の3月には、きっと素晴らしい卒業を迎えると思います。



そして、合唱コンクール。今年は5年ぶりに全校生徒が一堂に会して合唱コンクールを行いました。みなさんは、全校で行った合唱コンクールにどんな願いが込められていたか、わかりますか。後輩は先輩の姿を見ることで育ち、先輩は自分たちの姿を見せることで後輩に伝えます。それは合唱に限らず何でも同じで、そうした先輩と後輩の姿が末中の伝統となって受け継がれていくのです。41回生はさすが最高学年にふさわしい合唱でした。こうした先輩の姿を見て先輩の歌を聴いた42回生は、来年の成長がとても楽しみです。43回生は初めての大きな学校行事をみんなで頑張りました。

10月終わりには体育祭があります。リーダーを中心に、みんなで心を一つにして取り組むのは合唱も体育祭も一緒。合唱で得たことを体育祭でも発揮してください。

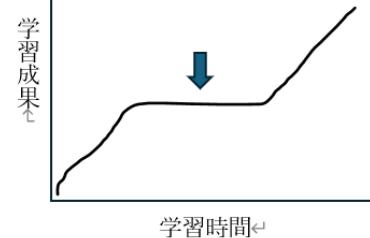
今日は後期のスタートの日です。「節目」の日です。節目という言葉は、もともと竹や木の『節』が語源となっているそうです。竹の節目は、竹が成長し、強くしなやかするために重要な役割を果たしています。竹は生まれた時から数十もの節目を持っており、それぞれの節目に生長点があるそうです。先端の一か所だけしか生長点がない植物に比べると、竹はすべての節に生長点があるので、そこを起点として一気に伸びることができるのだそうです。

竹は強い風にも耐えます。暴風でコンクリート製の柱が折れてしまっても竹は折れずに立っていられるほど丈夫です。竹の節の部分以外は空洞です。もし、竹の中がみっちり詰まっていたら、風の力をもろに受けて折れてしまうでしょう。竹は軽さと強さを両立した理想的な構造なのだそうです。そんな竹も、伸びが遅くなり、成長が止まったように見える時期があります。それはさらに伸びるための『節』を準備している時間で、新たな節を作ることでさらに高く伸びていきます。

私たちも同じで、スポーツでも芸術でも勉強でも、一つのことに取り組んでいると壁に当たることがあります。昨日までできていたことが急にできなくなったり、頑張っても成果が感じられない時が急に訪れたりするのを、何かに打ち込んだ経験がある人なら味わったことがあるのではないでしょうか。



先生たちは、教職の勉強をするときに、教育心理学などで「上達曲線」「学習曲線」ということを学びます。物事が上達していく過程は真っすぐではなく、ある時期、成長が止まったようにみえることがあります。上達過程を表したグラフでは、山のなだらかな場所（高原）に見えることから、「高原現象」「高原期」「プラトー」と呼ばれます。ここであきらめてしまうと終わりです。あきらめずに努力を続けていると再びグラフは上昇していきます。これは、学習や技術をより確実にするために必要な過程と考えられていて、先ほどの「竹がより高く伸びるために節を作る時間」にも重なるように私には感じられます。



皆さんがこれから何かに打ち込む中で、壁に当たり悩むことがあるでしょう。そんな時、こうしたことを探っているか知らないかでは、乗り越え方に大きな違いがあります。みんなで取り組んだ合唱も、うまくいかない時期はあったと思うし、体育祭でも学習でもスポーツでも、同じようなことがあると思います。そんな時、今日の話を少しでも思い出してくれると嬉しいです。充実した後期にしましょう。